

希少種であり漁業権魚種であるイトウを持続的に利用するためのモニタリング手法を開発しました

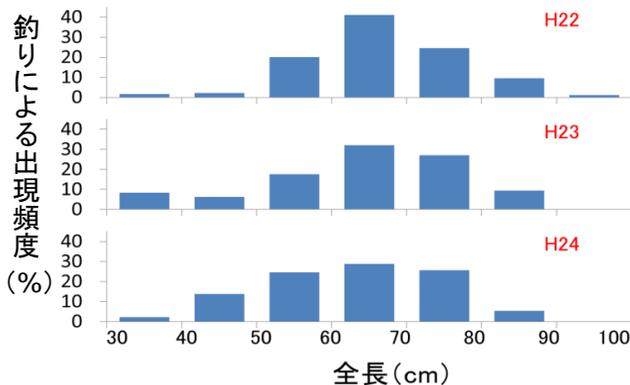
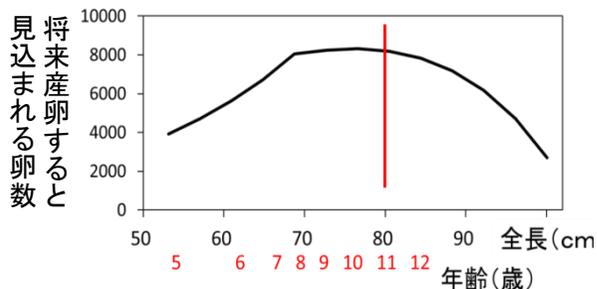
背景

- 朱鞠内湖のイトウは、天然の希少種で遺伝的多様性への配慮が必要です。
- 同時に、漁業や遊漁・観光資源として、持続的な利用が望まれています。



成果

1 漁獲は体長80cm以上に



○ 1尾当たりの将来産卵する卵数は80cmを境に減少します。

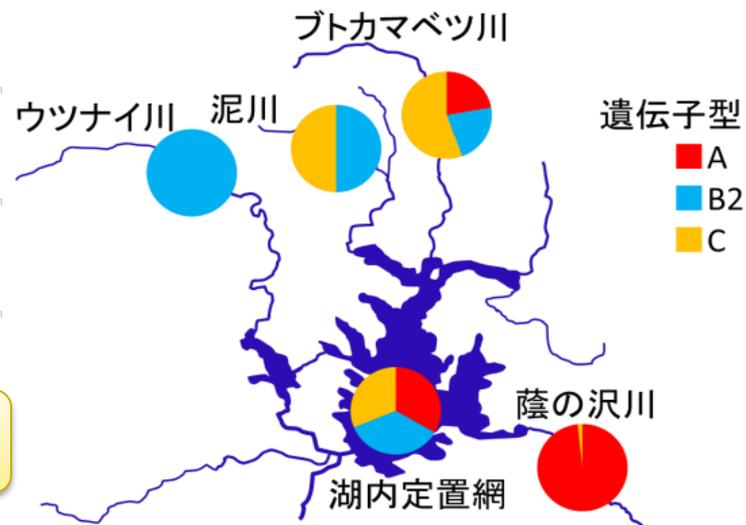
○ 80cm以上まで生き残る個体は少ないことが分かりました。

○ 全長80cm未満の個体を保護することで、再生産へのダメージを10%以下に抑えられると考えられます。

期待される効果

- 適切な体長制限の導入により、持続的に漁獲利用していくことができます。
- 人工的に増殖を行う場合も、支流間の移植放流は禁止することで、遺伝的多様性が保たれます。

2 支流間の移植放流は禁止



○ 支流毎に遺伝的な違いがあり、独自の繁殖集団を形成していることがわかりました。